

四半期報告書

(第44期第3四半期)

自 2019年10月1日

至 2019年12月31日

株式会社 図研

横浜市都筑区荏田東二丁目25番1号

表紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- | | |
|---------------------|---|
| 1 主要な経営指標等の推移 | 1 |
| 2 事業の内容 | 1 |

第2 事業の状況

- | | |
|--|---|
| 1 事業等のリスク | 2 |
| 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 | 2 |
| 3 経営上の重要な契約等 | 3 |

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- | | |
|-------------------------------------|---|
| (1) 株式の総数等 | 4 |
| (2) 新株予約権等の状況 | 4 |
| (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 | 4 |
| (4) 発行済株式総数、資本金等の推移 | 4 |
| (5) 大株主の状況 | 4 |
| (6) 議決権の状況 | 5 |

- | | |
|---------------|---|
| 2 役員の状況 | 5 |
|---------------|---|

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

- | | |
|------------------------------------|----|
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 7 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 9 |
| 四半期連結損益計算書 | 9 |
| 四半期連結包括利益計算書 | 10 |

- | | |
|-------------|----|
| 2 その他 | 13 |
|-------------|----|

第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月7日
【四半期会計期間】	第44期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	株式会社図研
【英訳名】	ZUKEN INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 金子 真人
【本店の所在の場所】	神奈川県横浜市都筑区荏田東二丁目25番1号
【電話番号】	045（942）1511（代表）
【事務連絡者氏名】	財務部長 吉田 勸
【最寄りの連絡場所】	神奈川県横浜市都筑区荏田東二丁目25番1号
【電話番号】	045（942）1511（代表）
【事務連絡者氏名】	財務部長 吉田 勸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第43期 第3四半期連結 累計期間	第44期 第3四半期連結 累計期間	第43期
会計期間		自2018年4月1日 至2018年12月31日	自2019年4月1日 至2019年12月31日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高	(百万円)	18,899	20,606	26,787
経常利益	(百万円)	1,999	2,332	3,191
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益	(百万円)	1,397	1,729	2,113
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,798	2,740	3,078
純資産額	(百万円)	31,770	35,120	33,050
総資産額	(百万円)	44,138	49,601	47,190
1株当たり四半期(当期)純利 益金額	(円)	60.10	74.40	90.88
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額	(円)	—	—	—
自己資本比率	(%)	71.1	70.0	69.1

回次		第43期 第3四半期連結 会計期間	第44期 第3四半期連結 会計期間
会計期間		自2018年10月1日 至2018年12月31日	自2019年10月1日 至2019年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	17.77	13.36

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間の経済環境につきましては、米国やわが国において緩やかな回復基調が続いたものの、米中貿易摩擦の影響や英国のEU離脱問題への懸念などから、先行き不透明な状況で推移いたしました。当社グループの主要なお客さまであるエレクトロニクス製造業、自動車関連・産業機器製造業におきましては、先行きへの不安感などから設備投資に慎重な姿勢が継続しているものの、IT投資については積極的な動きが続いております。

このような中であって、当第3四半期連結累計期間の売上高は、206億6百万円（前年同期比 9.0%増）となり、第1四半期及び第2四半期に引き続き過去最高を更新いたしました。これは、ワイヤハーネスの設計システム「E3.series」及び国内子会社の建築業向け3Dソリューションの販売が好調に推移し、回路設計ソリューションの売上が大きく伸びたことや、主力の電気設計システム「CR-8000 Design Force」を中心に基板設計ソリューションが堅調に推移したことによるものです。

利益面につきましても、売上高の伸長により、経常利益23億3千2百万円（前年同期比 16.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益17億2千9百万円（前年同期比 23.8%増）と過去最高となりました。

報告セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

・日本

電気設計システム「CR-8000」シリーズを中心に基板設計ソリューション及び回路設計ソリューションの売上が順調に伸びたことなどから、売上高は155億5千3百万円（前年同期比 12.0%増）となりました。営業利益につきましては、売上高の増加などから17億4千8百万円（前年同期比 26.1%増）となりました。

・欧州

回路設計ソリューション及びクライアントサービスの売上が堅調に推移し、現地通貨ベースでは増収となりましたが、為替の影響により売上高は41億4千万円（前年同期比 2.9%減）となりました。営業利益につきましては、新製品の開発加速による研究開発費の増加などにより1億2千4百万円（前年同期比 31.3%減）となりました。

・米国

回路設計ソリューションの売上が増加したことなどから、売上高は14億5千1百万円（前年同期比 15.0%増）となりました。営業利益につきましては、売上高の増加などから6千2百万円（前年同期比 242.6%増）となり、前年同期に比べて改善いたしました。

・アジア

韓国で基板設計ソリューションの売上が減少したことなどから、売上高は10億4千2百万円（前年同期比 9.3%減）となり、営業利益につきましては、売上高の減少などから2億8千7百万円（前年同期比 12.0%減）となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は29億4千1百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当第3四半期連結累計期間末における当社グループの資金（現金及び現金同等物）残高は、前連結会計年度末より12億4千9百万円増加して193億8千6百万円となり、当社グループの流動性は十分な水準にあると考えられます。また、財務状態につきましては、流動比率は347.0%、自己資本比率は70.0%であり、健全な財務状態であると認識しております。

将来の事業活動に必要な運転資金及び設備投資資金につきましては、営業活動により得られた資金及び内部資金より調達しております。また、資金の運用につきましては、信用リスク、金利等を考慮し、安全性を第一と考え、元本割れの可能性が極めて低いと思われる金融商品で行っております。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループは、設計・製造の効率化という課題の解決に向けたソリューションビジネスを展開しております。エレクトロニクス、自動車関連及び産業機器製造業を主要な市場とするほか、ソリューションを拡充し、設計・製造プロセス全体の最適化を提供していくこと等により、新たな市場、技術領域への取り組みを積極的に展開し、事業基盤のさらなる拡大を図っております。そのため、各種ソリューションの開発・強化の進捗やその品質・信用性の向上、エレクトロニクス、自動車関連及び産業機器を中心に製造業における設備投資の動向、さらには有力企業や関連会社との良好な協業・連携の維持といった要因が経営成績に重要な影響を与えるものと思われれます。

(7) 今後の見通し

今後の経済環境につきましては、米国やわが国において緩やかな回復基調が続いていくものの、米中貿易摩擦の影響や英国のEU離脱問題への懸念などから、先行き不透明な状況で推移するものと思われれます。

このような中において、当社グループは、お客さまの次世代のモノづくりに貢献する最適なソリューションを提供し、さらなる企業価値の向上に努めてまいります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	86,525,700
計	86,525,700

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数（株） (2019年12月31日)	提出日現在発行数（株） (2020年2月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	23,267,169	23,267,169	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	23,267,169	23,267,169	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高（株）	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額（千円）	資本準備金残 高（千円）
2019年10月1日～ 2019年12月31日	—	23,267,169	—	10,117,065	—	8,657,753

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 17,500	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 23,228,600	232,286	—
単元未満株式	普通株式 21,069	—	—
発行済株式総数	23,267,169	—	—
総株主の議決権	—	232,286	—

（注）「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が900株（議決権の数9個）含まれております。

② 【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
株式会社 図研	横浜市都筑区荏田東二丁目25番1号	17,500	—	17,500	0.07
計	—	17,500	—	17,500	0.07

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,523,202	19,659,879
受取手形及び売掛金	5,870,720	4,334,417
有価証券	6,700,000	6,700,000
商品及び製品	345,764	409,464
仕掛品	109,325	467,702
原材料及び貯蔵品	3,761	2,713
その他	2,336,168	2,741,696
貸倒引当金	△25,786	△24,705
流動資産合計	33,863,156	34,291,168
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,782,237	2,788,071
土地	3,015,103	3,015,103
その他（純額）	447,471	581,109
有形固定資産合計	6,244,812	6,384,283
無形固定資産		
のれん	492,088	982,084
その他	628,999	589,734
無形固定資産合計	1,121,088	1,571,818
投資その他の資産		
投資有価証券	4,919,667	6,433,365
その他	※ 1,042,243	※ 921,183
投資その他の資産合計	5,961,910	7,354,549
固定資産合計	13,327,811	15,310,652
資産合計	47,190,967	49,601,821

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	827,244	914,034
未払法人税等	630,106	184,806
前受金	5,455,151	6,112,468
賞与引当金	846,582	657,993
その他の引当金	84,533	50,384
その他	2,273,360	1,963,767
流動負債合計	10,116,979	9,883,455
固定負債		
退職給付に係る負債	3,842,064	3,944,390
その他	181,867	653,452
固定負債合計	4,023,931	4,597,842
負債合計	14,140,911	14,481,298
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,117,065	10,117,065
資本剰余金	8,659,016	8,659,023
利益剰余金	12,230,462	13,309,235
自己株式	△16,365	△16,649
株主資本合計	30,990,177	32,068,674
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,022,397	2,994,236
為替換算調整勘定	22,984	△50,484
退職給付に係る調整累計額	△428,220	△310,555
その他の包括利益累計額合計	1,617,162	2,633,196
非支配株主持分	442,715	418,651
純資産合計	33,050,055	35,120,522
負債純資産合計	47,190,967	49,601,821

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	18,899,838	20,606,832
売上原価	5,290,019	5,746,021
売上総利益	13,609,818	14,860,810
販売費及び一般管理費	11,711,585	12,630,225
営業利益	1,898,233	2,230,584
営業外収益		
受取利息	5,264	9,048
受取配当金	34,707	66,278
助成金収入	10,087	28,778
その他	82,734	36,972
営業外収益合計	132,793	141,078
営業外費用		
為替差損	29,626	36,615
その他	1,732	2,183
営業外費用合計	31,359	38,799
経常利益	1,999,668	2,332,863
特別利益		
固定資産売却益	327	2,159
権利譲渡収入	—	※ 137,269
子会社清算益	23,321	—
特別利益合計	23,648	139,429
特別損失		
固定資産処分損	3,799	4,749
特別損失合計	3,799	4,749
税金等調整前四半期純利益	2,019,517	2,467,544
法人税、住民税及び事業税	476,323	594,108
法人税等調整額	152,647	148,753
法人税等合計	628,971	742,861
四半期純利益	1,390,546	1,724,682
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△6,834	△5,080
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,397,381	1,729,762

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	1,390,546	1,724,682
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	304,898	971,839
為替換算調整勘定	△50,038	△73,469
退職給付に係る調整額	153,196	117,664
その他の包括利益合計	408,056	1,016,034
四半期包括利益	1,798,602	2,740,716
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,805,437	2,745,796
非支配株主に係る四半期包括利益	△6,834	△5,080

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
投資その他の資産	14,908千円	14,902千円

(四半期連結損益計算書関係)

※ 権利譲渡収入

海外連結子会社において、使用する見込みのないIPアドレスを譲渡したことによるものであります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	500,273千円	499,040千円
のれんの償却額	118,347千円	148,321千円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年12月31日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	279,001	12	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金
2018年11月5日 取締役会	普通株式	279,000	12	2018年9月30日	2018年12月4日	利益剰余金

II 当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	325,495	14	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金
2019年11月11日 取締役会	普通株式	325,494	14	2019年9月30日	2019年12月3日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	米国	アジア	計		
売上高							
外部顧客への売上高	12,991,160	3,587,951	1,232,980	1,087,745	18,899,838	—	18,899,838
セグメント間の内部 売上高又は振替高	890,397	674,577	28,656	62,308	1,655,939	△1,655,939	—
計	13,881,557	4,262,528	1,261,637	1,150,053	20,555,777	△1,655,939	18,899,838
セグメント利益	1,386,122	180,621	18,283	327,226	1,912,255	△14,021	1,898,233

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去△14,021千円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	米国	アジア	計		
売上高							
外部顧客への売上高	14,744,980	3,473,889	1,409,661	978,301	20,606,832	—	20,606,832
セグメント間の内部 売上高又は振替高	808,687	666,448	41,772	64,263	1,581,172	△1,581,172	—
計	15,553,667	4,140,337	1,451,434	1,042,565	22,188,005	△1,581,172	20,606,832
セグメント利益	1,748,033	124,012	62,631	287,845	2,222,521	8,062	2,230,584

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去8,062千円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	60円10銭	74円40銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (千円)	1,397,381	1,729,762
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	1,397,381	1,729,762
普通株式の期中平均株式数(株)	23,250,040	23,249,607

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2019年11月11日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………325,494千円

(ロ) 1株当たりの金額……………14円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………2019年12月3日

(注) 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月7日

株式会社 図研

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 古山 和則 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川口 靖仁 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社図研の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社図研及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。